

授業科目 発達障害作業療法学演習

【担当教員名】 永井 洋一	対象学年 3	対象学科 作業
	開講時期 後期	必修・選択 必修
	単位数 1	時間数 30

<一般目標：G I O>

発達障害作業療法学の履修を受け、発達障害児の作業遂行を可能にするための援助方法について、理論的枠組みとその具体的実践の方法を習得する。

<行動目標：S B O>

1. 発達障害児で阻害される作業遂行能力とその要素について概略を説明できる
2. 身体的・精神的障害が発達の様々な局面に与える影響について説明できる
3. 作業遂行の具体的障害について模擬的（模倣的）に示すことができる
4. 作業遂行を可能にする指導・援助について、具体的方法を模擬的に示すことができる
5. 1種類の発達障害を想定し、次のいずれかができる
 - 1) その子どもの使える玩具、又は遊具を作成できる
 - 2) その子どものADLを助ける自助具を作成できる
6. 遊びの援助と治療的利用について、原理と方法を説明することができる

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題
1	発達障害と作業の障害	1	講義
2	身体面の影響	2	演習（グループ）
3	精神面の影響	2	"
4	ADLの障害(1)食事	3	講義
5	食事の援助方法シミュレーション	3,4	演習（グループ）
6	"(2)排泄	3	講義
7	排泄の援助方法シミュレーション	3,4	演習（グループ）
8	"(3)更衣	3	講義
9	更衣の援助方法シミュレーション	3,4	演習（グループ）
10	遊びと学習の障害	3	講義
11	遊びの援助と治療的利用	6	講義
12	遊具・自助具作成(1)	5	演習（グループ）
13	"(2)	5	演習（グループ）
14	まとめ		講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	特に指定せず、資料を配布する			
参考書	脳性麻痺児の家庭療育（原著第3版）、Finnie, N.R.（鈴木、梶浦訳）、医歯薬出版、1999、¥3,500+税 障害をもつ子の遊びカタログ：加藤正仁、学研、1984、¥3,300+税			
その他の資料	おもちゃで育てる：湯汲英史、ぶどう社、1985、¥1,500+税			

【評価方法】 出席：10%、参加態度：20%、発表：30%、作品分析レポート：40%	【履修上の留意点】 原則として人間発達、発達障害作業療法評価学・同演習、および発達障害作業療法学の単位を修得していなければならない
---	--